

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

“テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実”

『週刊現代 - JR東日本革マル浸透問題告発 - 』連載第3回

これが革マル派の運転士狩りだ!

『週刊現代』が、JR東日本の革マル浸透問題を連載記事で告発した。本紙は驚くべきこの事実をシリーズで紹介する。(オンライン有料購読にて入手・・・一部要約抜粋)

< 週刊現代 2006年7月31日発売号 >

脅し文句は「オレは革マルだ」

今年5月から7月にかけて私は、浦和事件の被害者に、数回にわたってインタビュー取材を行った。・・・運転士になりたてのY氏を、JR東労組の“お家芸”ともいえる、吊るし上げが襲った。Y氏が語る。

「きっかけは一枚のハガキでした。運転士として乗務を始めて間もない頃、JR東労組浦和電車区分会の役員から、国労組合員に、JR東労組に移るよう呼びかける、『勧誘ハガキ』を書いてくれと頼まれました。しかし国労組合員の皆さんは、新米運転士の私からすれば、大先輩ばかり。彼らが、自らの信念に基づいて、国労に所属しているのに、私のような若い者が、勧誘ハガキを、しかも自宅にまで送りつけるというのは、どう考えても失礼だと思い、断ったのです。しかし、その後も役員たちは、しつこく私に勧誘ハガキを書くよう、迫ってきた。そして12月末、あまりにも彼らがしつこいので、私も思わず、『そんな勧誘ハガキ書くくらいなら、組合(JR東労組)の脱退届を書いてやる』って言ってしまったんです」・・・

その後、JR東労組はY氏自身の『組織破壊行為』を見つけだしてきた。「'00年11月、私は、前の勤務地だった東京車掌区の人たちと、キャンプに行きました。別に組合や会社の行事でもなく、まったくのプライベートでした。ただ、そのなかに一人だけ、『JRグリーンユニオン』に所属していた仲間がいたんです。それがJR東労組組合員に知られ、『キャンプに行った他のメンバーを明かせ』と迫られました。それは3時間も続き、『お前のやったことは組織破壊行為だ』、『絶対に許さないぞ』と怒鳴られ続けました」「連日、午前11時から午後1時まで、さらに午後1時半から3時半までと、3日間で計6回行われました。まず分会長が、私に発言を促し、私が『反省の弁』を述べる。それに対し、20~30人の組合員から『この裏切り者!組織破壊者!』、『お前が主任運転士になれたのは組合のお陰だろ』と大声で罵ののしられました。そしてこの6回に及ぶ吊るし上げには、大宮地本の梁次副委員長も来ていました。私は彼の姿を見て、心底ゾッとしました」(Y氏)

警視庁公安部は、この浦和事件で逮捕した7人のうち、4人が革マル派活動家と見ている。そのなかでも、この梁次は、革マル派内の秘密組織のメンバーだった。この事件は、JR東労組に深く浸透する革マル派が、その凶暴性を剥むき出しにした事件だったのだ。・・・

『裏切り者め、責任とって組合辞めろ。組合辞めろということは、会社も辞めろということだ』・・・今後こんな脅しが毎日続くのかと思うと、恐ろしくて、運転に全然集中できませんでした。

勤務終了後もロッカー室で二人の分会員に囲まれ、『お前、ずいぶんふざけたことしてくれたな』、『グリーンユニオンとつるんで、組織破壊行為してくれたそうじゃねえか』と散々怒鳴られた後、そのうちの一人にこう脅されたのです。『オレは革マルだ、ふざけんなよ.....』その言葉に私は、下手をすれば殺されるのではないかと思うほどの恐怖を覚えました」(Y氏)